

1-7			
主題	その人らしい生活と家族の想い		
副題	入居者の重度化にミンナとしてどう応えていくか		
キーワード1 看取り	キーワード2 その人らしさ	研究(実践)期間	14 ヶ月

法人名	社会福祉法人 至誠学舎立川
事業所名	至誠ホームミンナ 特別養護老人ホーム
発表者(職種)	木下ちはる(介護職)
共同研究(実践)者	なし

電話	042-300-3700	FAX	042-300-3710
----	--------------	-----	--------------

今回発表の事業所やサービスの紹介	平成 21 年 4 月、国分寺市に開設した定員 29 名の地域密着型特養です。グループホーム 18 名、小規模多機能型居宅介護 25 名、地域包括支援センター、サービス付高齢者向け住宅 7 戸を併設しています。また、同一敷地内に児童養護のグループホーム 6 名があり、高齢者と児童との世代間交流も活発に行っています。
------------------	--

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

開設後 8 年目を迎え、入居者の平均介護度も現在 4.5 と重度化が進行している。平成 27 年度は、死亡あるいは長期入院等の理由から定員の 4 割以上が退居となった。現在は、体制上看取りケア加算を取得せず、医療機関の協力を得ながら看取りに近いケアを実施している。ご家族からは「最期までミンナで過ごして欲しい」という希望も多く聞かれる中、現体制でその声にどう応えていくのかを改めて考えることとなった。

スタッフとご家族で何度も話し合いを重ね、2 つのケースから、その人らしい生活を継続する為に、当施設の現体制で可能なケアの説明や、本人の好みや物事の考え方等のより細かな情報を、状態が変化する前かご家族と情報共有することが大切であるという課題が見えてきた。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

「ミンナのファミリーシート」というアセスメントツールを作成し活用することで、どの職員でも充実したカンファレンス(サービス担当者会議)を実施することができ、入居者とご家族の想いが反映されたケアプランを作成できるのではないかと。

また、今後起こりうる状態変化を想定し、入居者がお元気な頃から、よりその人らしい生活について、本人やご家族の意向を確認すると共に、考えられるリスクと当施設で対応可能なケア等についてご家族へ説明することができ、入居者の生活についてより深く考えることができる機会となるのではないかと。

《3. 具体的な取り組みの内容》

①看取りケアに関する勉強会

⇒看取りケアを経験していない職員が多い為、フロアでの意識の統一化・職員一人一人の思いを共有する為に勉強会の場を設けた。

②カンファレンスの内容に関するアンケートの実施

⇒カンファレンスは、主に担当ケアワーカーが進行をしている。カンファレンス時に気をつけていることやご家族へ必ず伝えていること等、意見を出し合った。

③「ミンナのファミリーシート」を活用したカンファレンスの実施

(シートの内容)

- ・他職種とのやりとりの内容
- ・急変時の延命治療の希望確認
- ・当施設で対応ができること・できないことについての説明
- ・経口摂取が困難になりつつある方に対してご家族の希望や想い
- ・入居者の生活歴・好み等の情報

④カンファレンスのロールプレイ

⇒ファミリーシートの使用前後での違い、ご家族や職員の立場からの主観・客観的な意見等を出し合った。

《4. 取り組みの結果》

カンファレンスにおいて、どの職員が対応してもご家族に伝えるべきことが分かりやすく、対応が統一されたと共に、今まで知らなかった入居者の情報を聞くことができケアプランの内容がより本人らしいものへと変化した。また、ご家族が入居者本人の現状を理解し職員と情報を共有できる機会となり、ケアに積極的に参加して下さるようになった。

《5. 考察、まとめ》

今後も入居者の重度化が進行することが予測される。その中で、本人・ご家族の想いに全て応えることは難しいかもしれないが、「ミンナのファミリーシート」を活用することで、できる限りその人らしさやご家族の想いがしっかりと反映されたケアプランを作成し、最期を迎えるその時に悔いが残らず「ミンナで良かった」と思える生活を実現できるよう今後も努めていくとともに、施設として看取りケア加算の取得できる体制整備についても検討したい。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

本研究(実践)発表を行うにあたり、ご家族に電話にて確認をし、本発表以外では個人情報を使用しないこと、また、使用による不利益を被ることのないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

「至誠ホームにおける天寿を全うするケアガイドライン」(社福)至誠学舎立川 至誠ホーム 天寿を全うするケア研究会(2013年)

《8. 提案と発信》

入居者の重度化が進み、看取りに近い状態の入居者が増加している。しかし、看取りとは、何か特別なことをするのではなく、これまでの生活の延長線上ということ念頭に置き、入居者・ご家族・医療機関・職員が思いを共有し、協働したケアを実施することで、その人らしい生活を支え、最期を迎える時に「ここにいて良かった」と思える生活の場であり続けられるのではないかと。その為の努力を今後も努めていく。